

会 派 活 動 報 告 書

令和4年3月31日

岡谷市議会議長

小 松 壮 殿

会派名 令明おかや

代表者名 浜 幸 平

令和3年度における岡谷市議会 会派「令明おかや」の活動について、下記のとおり報告いたします。

活 動 項 目	活 動 内 容 及 び 活 動 の 実 績 と 効 果
<p style="text-align: center;">調 査 研 究</p>	<p>○活動内容 令和3年度会派視察 開催日 令和3年6月14日（月） 開催場所 テクノプラザおかや コワーキングスペース 〔研修概要〕 令和3年6月4日にテクノプラザおかや内に、コワーキングスペースが開設されました。工業振興課より開設の目的、今後の運用についての説明を受けました。</p> <p>○活動の実績と効果 【研修で学んだこと】 ララの解体に伴う、信州大学サテライトキャンパスもテクノプラザおかやに設備移設され、大学院講義のスペースも新たに開設されました。このことにより、信州大学とも包括連携協定が締結されました。コワーキングスペースを活用して、関係・交流人口の増加、異業種交流による新たな産業の創設を図っていく事業であるとの説明でした。</p> <p>【今後の議会活動に生かしたいこと】 コロナ下による働き方も多様となり、コワーキングスペースの活用により、当初の目的が達成していけるように、この事業を注視していきます。また、この施設には移住定住に向けての案内もあり、多くの機能を持った施設であり、有効な活用がなされるよう、市民へ利活用に向け周知も図ってまいります。</p>
<p style="text-align: center;">研 修</p>	<p>○活動内容 2021年7月7日・8日 全国地方議会サミット2021 講演1「議会から地方の変革を」 講演2「市民による政策選択から実践までつながるシステムづくり」 セッション1「生活者起点のマニフェストサイクルで地域を変えていく」</p>

<p>研 修</p>	<p>事例報告 1 「オンライン本会議の可能性を探る」 ～模擬本会議を実施した大津市議会からの報告</p> <p>事例報告 2 「楽しみながら社会問題や政策の存在に気付く 『ゲーム限界都市』」</p> <p>事例報告 3 「『みんな de 議会』 議会より一足先に予算を市民と一緒に 審査する」</p> <p>講演 3 「議会改革から議会の“変革”へ」</p> <p>事例報告 4 「議会報告会のオンラインの活用や他議会と」</p> <p>事例報告 5 「議長主催による初当選議員勉強会やオンラインへの道のり」</p> <p>セッション 2 「“変革”へ向けた議会のあり方」</p> <p>ファシリテーター</p> <p>まとめ</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>【研修の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いま地方議会には、新型コロナウイルス感染症をはじめ、多様な課題の解決 へ向け意見の集約と政策への反映が求められています。デジタル活用におい ては、委員会のオンライン開催に関する全国市議会議長会による参考条例が 示されるなど、その機運が高まっています。また、政治分野における男女共 同参画の推進も求められるなど、議会の多様性確保への体制整備も迫られて います。 ・ 事例報告 1 「オンライン本会議の可能性を探る」 新型コロナウイルス感染症が蔓延して間もなく、大津市職員が濃厚接触者とな り庁舎内で感染拡大したことから庁舎が全面閉鎖されました。そのことか ら、議会として大きな危機感を感じたことから、「感染症対応版議会 BCP の 改定」「オンライン本会議実現に係る法改正意見書の提出」「オンライン会議 の実証実験」など、改めて危機管理の脆弱性を改善したことと、「オンライン による本会議運用マニュアル」を策定しました。 ・ 事例報告 2 「楽しみながら社会問題や政策の存在に気付く『ゲーム限界都市』」 遊んでいるうちに様々な社旗問題や政策課題に気づくことが出来るカード ゲーム、プレイヤーが市長となり、財源と政策を駆使し市民の幸福度を競い 合うことができ、実際のまちづくりを体感できる。 ・ 事例報告 3 「『みんな de 議会』 議会より一足先に予算を市民と一緒に審査する」 敦賀市議会議員（前川議員）個人の取り組み、「みんな de 議会」とは、自分 が納めた税金の使い道について話し合う場です。また、クイズ形式で現状を 把握することにより、政策課題をより身近に感じていただき、市民が参加し やすい環境を作り出していくゲームになります。
------------	---

研 修

・事例報告 4

「議会報告会のオンラインの活用や他議会と連携した議会 BCP の改定」
新型コロナウイルス感染症の出現により議会にも新しい様式が求められてきました。早急な対応が求められたのは、「議会報告会」と「議会 BCP の見直し」であり、議会報告会はオンラインで、議会 BCP の改定はプロジェクトチームを結成し協議をすすめ対応したものであります。

・事例報告 5

「議長主催による初当選議員勉強会やオンラインへの道のり」

議長が議会を代表し公平で民主的かつ効率的な議会運営に努めるとともに、「チーム議会」として議会が目的をもって前進するために、議長による新人議員の勉強会を開催しました。議員個人ではなく、議会として市民に対し責任ある発信をするためのものであります。

【今後の議会活動に生かしたいこと】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により社会経済活動が制限される中、議会も同様に改革をしなければならない段階に来ていると感じています。特に危機管理では、「議会 BCP」の見直しを図ることで、いついかなる状況でも議会が機能する体制を維持することと、さらに、近年の頻発化、激甚化する災害に対し、柔軟に対応することが求められています。また、オンラインの必要性については、地方自治法との整合性を十分に検証しながら、必要に応じて利用できる環境整備が必要であります。いずれにしても議会として求められる対応は時代の変遷に即したものであり、議会の体制強化が必要不可欠であると同時に、市民にとって安心安全なまちづくりの一助になることが大切であると感じました。

○活動内容

ホームページ作成講習会・実習作業

ホームページ作成ツール「ペライチ」の概要と、個人ホームページ作成として実習を行ないました。

- ・開催日時：令和 3 年 8 月 19 日（木） 10 時から 12 時まで

会派定例会として開催しました。

- ・開催場所：市庁舎 7F 会派室

- ・講 師：ペライチ インストラクター

株式会社 IKI&IKI 代表取締役 橋本芳裕 氏

作成された会派ホームページのアドレス

<https://reimei-okaya.hp.peraichi.com/>

〔研修の概要〕

1. ホームページ作成ツール「ペライチ」の利用について概要説明
2. ノートパソコンに ソフトウェアをインストールして実習
3. 個人のホームページ作成・実習

研 修

4. ホームページのセキュリティ対策とページの公開について

○活動の実績と効果

【研修で学んだこと】

研修を通して得た知識について

1. 茅野市では公式なホームページ作成ソフトとして、積極的に利用されている状況を説明され、行政よりの支援策も充実しているとの話でした。またサポート役として、ペライチについての講習会も積極的に展開しているとのことでした。
2. 数年前までは、有料ソフトウェアを利用することにより ホームページ作成を行っていましたが、クラウド利用により専門的な知識無しに開設できる利便性について学習することができました。
今後は 業務用としての高度なホームページ作成用の分野と、個人向けの利用について特化した分野の二極化が進むのではないかと考えております。
3. 公開ページ作成後のサポート体制について

手軽に個人が作成できるメリット以外に、地元でサポート体制が確立できることは非常に有益なことであると思います。オンラインでのサポートも可能とのことですが、やはり対面による 作成指導が魅力的だと考えております。

【今後の議会活動に生かしたいこと】

今後は検索サイトなどのキーワード検索に載る事と、閲覧者の内容分析など 閲覧履歴の分析が出来れば良いと考えておりますが、有料のオプションを使うこととなり費用が発生すること また議員任期の期間に限定されることなどを考えれば、今後どうすればいいのかその点を検討する必要があるかと思えます。

【議員各位のデジタルデバインドについて】

個人のスキルの違いによるホームページへの運用に影響が出て来ることが想定されます。①情報発信が順調にできる議員とそうでない議員のギャップをどのように埋めていくのか。②議員のホームページを選挙活動にどのように展開してゆくのか。③ 開設後のホームページの内容更新などの保守・管理。などが今後の課題になろうかと思えます。情報化時代に向かう議員としては、いっそうの 努力と知識の習得が必要であると考えます。

○活動内容

令和3年度市町村議会議員研修会[2日間コース]

第二回「防災と議員の役割」に参加しました。

- ・開 催 日：令和4年1月6日（木）～7日（金）
- ・開催場所：滋賀県大津市全国市町村国際文化研修所（JIAM）

研 修

〔研修の概要〕

1. 災害に備えた危機管理
2. 平時の防災と議員の役割
3. 大船渡市議会の取組み事例（オンライン）
4. 災害時、復旧・復興期の議員の役割

○活動の実績と効果

【研修会で学んだこと】

1. 災害に備えた危機管理について

災害発生時には、人・物・情報等に制約が出る中で、危機管理体制を構築して被害を最小限に抑え、復旧・復興に向けた諸活動を組織的に進めることが重要である。加えて、平時から住民の意識向上の取組みと実効性ある住民避難体制を考えることが重要であることがわかりました。

2. 平時の防災と議員の役割について

防災における重要課題は、財政難や職員不足に起因する公助の限界などがあげられる。そのため、平時に地区防災計画の策定をしておくことが重要である。更に、柔軟性と実効性ある防災訓練、広域的連携強化を進める必要がある。議員の役割としては、危機管理の点から議会BCP（業務継続計画）の策定を急ぐ必要があることを理解しました。

尚、“自分は大丈夫！”と思いついてしまう「正常化の偏見」という人間の心理を認識・意識して行動する必要があることがわかりました。

3. 大船渡市議会の取組みについて

「災害を契機とした議会機能の強化」として、議員と議会の役割の明確化、行政と議会の役割の違いを整理して大船渡市議会災害対応指針策定につなげたとのことでした。

更に、被災者や市民の意見を取りいれながら、災害復興対策特別委員会、復興特別委員会を設置し、延べ493項目の提言書を市長へ提出した。

また、議会基本条例を上位に、災害対応指針・災害対応マニュアル・議会BCP・感染症対応版BCPの連携を体系的に整理したとのことでした。

4. 災害時、復旧・復興期の議員の役割について

被災した時点で議会・議員の統一行動は不可能であり、議長を中心とした統制のとれた組織的な取組みが重要となる。応急対策時は地域支援を中心として、議員から提供された情報を議長は整理し、議会災害対策支援連絡会議及び市災害対策本部において協議をすることが重要であるとのことでした。

また、意見書による国、県への要望活動を進めることも必要であるとのことでした。

【今後の議会活動に生かしたいこと】

1. 地区防災計画策定の取組みについて、行政に要望しました。令和4年3月定例会一般質問（中島保明）で地区防災計画策定を打診し、行政から

<p>研 修</p>	<p>は、地区防災マップで対応するとの回答でした。</p> <p>2. 災害弱者に対する「避難行動要支援者登録制度・個別支援計画策定」の仕組みの強化及び互助による実効性ある避難行動支援の充実を図るために、議会報告会や意見交換会の中で、この登録制度や避難行動の課題の把握を議会改革検討委員会の中で提案します。</p> <p>また、国や県に対して、岡谷市への支援が必要な内容は議会としての意見書提出の働きかけを行います。</p> <p>3. 「議会BCP策定」について、次年度議会改革項目への追加を提案します。</p> <p>4. 災害時や感染症拡大などの非常時における議会機能維持のための喫緊の課題（委員会のオンライン開催に向けた条例改正など）に積極的に取り組みます。</p> <p>○活動内容</p> <p>令和3年度「第3回市町村議会議員特別セミナー」（オンライン）</p> <p>開催日 令和4年1月24日（月）～25日（火）</p> <p>開催場所 岡谷市役所 7階議会会派室</p> <p>〔研修概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヤングケアラー～介護を担う子どもたち～ 2. いま、見つめなおす「ひきこもり」 ～ひきこもり白書2021から見えてきたこと～ 3. こども食堂と私たちの地域・社会 4. コロナに負けない！健幸都市（ウォークブルシティ）のまちづくり <p>○活動の実績と効果</p> <p>【研修で学んだこと】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヤングケアラー～介護を担う子どもたち～ ヤングケアラーとは、慢性的な病気や障がい、精神的問題などを抱える、家族の世話をしている18歳未満の子どもや若者です。厚生労働省によるヤングケアラー実態調査が、中学2学年、高校2年生を対象に実施されました（2020年12月～2021年2月）「家庭での手伝い」と「ヤングケアラー」の境界線は、子どもの年齢や成熟度に合わない、重すぎる責任や作業が継続的に子どもに係ってくる、あるいは、その年齢の子どもや若者として想定される生活ができない、子ども自身の心身の健康や、安全や教育に影響が出てくることです。 2. いま、見つめなおす「ひきこもり」 ～ひきこもり白書2021から見えてきたこと～ ひきこもりの実態調査を行い、自治体との協働による取り組みの紹介があり、実態調査による寄せられた声の分析と内容が紹介されました。どこに相談していいのかわからない、相談員がひきこもり等に理解がなかったなど支援についての声や、支援の方法の現状がわかりました。ひきこもり
------------	--

研 修

白書2021から見てきたことは、就労支援や、ひきこもり支援の在り方、また行政に望むことなどを理解しました。

3. こども食堂と私たちの地域・社会

子ども食堂とは、公園のような居場所、ちょうどいい器、あるいは、多世代が交流する場所であり、子どもの居場所づくりは制度化されつつあり、定義されてきています。また、大型量販店などが支援に積極的にかかわっています。

4. コロナに負けない！健幸都市（ウォーカブルシティ）のまちづくり

コロナ下で高齢者の外出が抑制され、人と会わなくなり免疫力が低下して、健康二次被害が心配され2～3年後に、寝たきり高齢者の増加を予測しているので、その対応が必要との説明がありました。

【今後の議会活動に生かしたいこと】

第3回市町村議会議員特別セミナーに参加して、各テーマは深く、広く、重い課題と捉えました。また、個人情報にかかわってくる案件となり、相談内容の秘匿にも十分な配慮が必要と考えます。一人一人の状況がみな違い、議会としてどう取り組んでいけるのかを考えて、議会の総意として、行政に提言をしまります。

○活動内容

「オンライン議会最前線実践と可能性」

- ・開催日：令和4年1月31日（月）
- ・研修場所：岡谷市役所7階議会会派室

【研修の概要】

1. 基調提起「DXとデモテックで地方から・議会から変えていけ」
2. 基調講演「討論の広場と議事機関としての議会とオンライン」
3. 実践報告 取手市議会
「デモテック前進！デジタルとオンラインで議会がかわる」
4. 実践報告 大津市議会
「コロナと非常事態に備える！オンライン本会議実現へのミッションロードマップ」
5. 実践報告 知立市議会
「もっと市民に開いていく！議会DXチャンスロスをなくせ」
6. ディスカッション
7. 提起・総括
8. 質疑応答

○活動の実績と効果

【研修会で学んだこと】

令和2年4月に新型コロナウイルス感染症対策として緊急事態宣言が発令され、こうした状況下において地方議会の本会議や委員会をオンライン会議

<p style="text-align: center;">研 修</p>	<p>により開催できるか否かが緊急の議論になりました。</p> <p>これについて総務省は、令和2年4月30日付け総務省自治行政課長通知「新型コロナウイルス感染症対策に係る地方公共団体における議会の委員会の開催方法について」を出して一定の見解が示されています。結論的に言いますと、本会議については、オンライン議会はできないものの、委員会については「各団体の条例や会議規則について必要に応じて改正等の措置を講じた上で開催することは可能」になっています。</p> <p>このような環境ではありますが、今回の研修で実践報告をされた三つの市議会では、それぞれの議会で議論を重ね、時には横のつながりによる情報収集や行動を共にして、委員会のオンライン会議開催にこぎつけていました。</p> <p>その一つである取手市議会では、委員会審議にオンラインを導入するにあたり、ビデオ会議システムの使い方や会議の進めなどについてマニュアルを作成している事例発表がされています。</p> <p>今後もいろいろな角度からの課題は出てくることが推測されますが、議会でのオンライン化は避けられない大きな課題になっていくこととなります。</p> <p>【今後議会活動に生かしたいこと】</p> <p>オンライン会議は、非常時に議会機能を維持する有効な手段となり得ます。議員の移動時間や交通費を節約でき、子育て、介護に追われてしまう人や会社員が参加しやすくなるため、地方議員のなり手不足の解消となる一手の可能性もあります。ただし、国会は委員会も含めてオンラインでの参加は認めていません。総務省は、地方議会の本会議の「出席」は、議員が実際に議場にいることだと解釈されています。</p> <p>オンライン会議の必要性を体感している今、まずは議員それぞれがデジタル機器の操作を習得してもらうことや、どのような場面でオンライン会議を活用することが効率的であるのか、また、オンライン会議のルール整備など、今の時代に即した、新しい会議のあり方をしっかり考えていくことが、今後の議会活動の優先的項目となります。</p>
<p style="text-align: center;">広 報</p>	<p>○活動内容</p> <p>会派のホームページを開設</p> <p>会派の活動方針と取組みについて、適時多くの方々にご理解いただく一方、会派活動や議会活動などへのご意見の把握にも努めた。</p> <p>※ホームページのアドレス：https://reimei-okaya.hp.peraichi.com/</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>ホームページの更新管理や掲載内容の充実という課題はあるが、会派としての情報発信の強化につながった。更に、会派のメンバーが個々にホームページを開設できる知識が備わり、個々に開設を始めている。</p> <p>【今後の議会活動に生かしたいこと】</p> <p>ホームページ閲覧者からいただいたご意見・ご要望を、適時整理・分析し、今後の会派活動・議会活動に生かしていきたい。</p>

広 聴

○活動内容（１）

森林活用講習会

1. 野本 宏一氏（中央緑化・代表取締役）
 - ・開催日：令和３年５月１０日（月）
 - ・開催場所：岡谷市役所 7 階議会会派室

【広聴概要】

- ・森林環境譲与税は、市町村においては、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林整備及びその促進に関する費用」に充てることとされています。本地域もこれまで手入れが十分に行き届かなかった森林整備の促進とともに、地産地消による木材利用の推進、また、環境整備による業務の効率化などお聞きしました。

【聞き取った内容】

- ・森林環境税は令和元年度より前倒しをして各地域に分配をされています。明確に用途が決まっていることにより利用範囲が制限されてしまいます。それゆえに、施工業者からすれば利用範囲を緩和することにより、森林整備がより効果的に行われることを期待しているということでもあります。

【まとめ】

- ・「森林環境税」は、令和 6 年度から個人住民税の中から、国税として 1 人年額 1,000 円を市町村が賦課徴収します。税金は公平公正に利用されることが原則であり明確な用途が求められます。そのことから、「森林整備及びその促進に関する費用」に沿った効果的な森林整備事業を推進することが必要であると感じます。今後、分配される剰余金は増加していきます。効果的な森林経営をしていただき、地域の山林整備の促進につながることを期待しています。

○活動内容（２）

「コロナ禍における旅行業界の現状について」

1. 林 正勝氏（全日本旅行・代表取締役）
 - ・開催日：令和 4 年 1 月 27 日（木）
 - ・開催場所：岡谷市役所 7 階 議会会派室

【広聴概要】

岡谷市内で、旅行代理店を営む代表取締役社長から、コロナ禍における旅行業界の現状について、新聞記事や県からの通達を元に、GO TO トラベルなど業界の現状、今後の展望などについてお聞きいたしました。

【聞き取った内容】

世界的蔓延する新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の旅行に甚大なる被害が発生しています。長野県内の旅行業協会会員の営む中小企業においては、個人や団体旅行等ツアーのキャンセルが相次ぎ、売り上げが全くない大変厳しい危機的局面に瀕しています。

<p style="text-align: center;">広 聴</p>	<p>政府の緊急事態宣言の発出と外出自粛の要請により、国民の旅行が困難になり、旅行業者は店舗の休業を余儀なくされており、このような中、長野県による休業要請に対する支援対象業者に、長野県の観光・宿泊施設への送客を業としている旅行代理店は含まれておりません。救済の道も閉ざされている現状を知っていただきたいと思います。</p> <p>【まとめ】</p> <p>長野県新型コロナウイルス感染症対策本部会議では、「観光・宿泊施設は県外からの人を呼び込まないこと」「旅行代理店に対しても県外への営業をしないこと」を求めています。その中で、県は観光・宿泊業者には感染防止支援金を支給していますが、旅行業者には支給していません。</p> <p>経営の存続を断念せざるを得ない苦しい状況に置かれている長野県旅行業協会の会員の旅行業者の方からの現状を、会派として、しっかりお聞きした上で、苦境に置かれている旅行業者の皆さんと今後のことを一緒に考えていくことの必要性を確認いたしました。</p>
<p style="text-align: center;">要請・陳情</p>	<p>○活動内容</p> <p>I. 市長への令和4年度予算要望提出</p> <p>1. 活動の位置づけ：会派活動方針-政策立案としての活動です。令和2年度及び令和3年度上半期を総括し、令和4年度の市政について会派の思いを込めた予算要望書（会派政策提言）を市長あて提出しました。</p> <p>2. 活動状況：9月、10月に数回の会派会において検討を重ねました。</p> <p>3. 要望書提出：令和3年10月21日（市長室にて。全員出席）</p> <p>4. 要望の重点項目：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新型コロナウイルス感染症への対応と地域医療連携 ◆ 激甚化・頻発化する自然災害に備えた防災・減災体制の強化 ◆ 新型コロナウイルス感染症により影響を受けた地域経済の活性化 ◆ 地域福祉・地域医療の充実 ◆ 次世代を担う子どもの育成支援、保育及び学校教育の充実 <p>○活動の実績と効果</p> <p>当要望書の令和4年度事業への反映を3月の常任委員会（予算委員会）にて検証しました。</p> <p>II. 意見書の提出</p> <p>会派の設立時（令和3年6月）に、「各議会（定例会）において、少なくとも一つの意見書を発案する」を目標に掲げました。議会前の会派会において意見書のテーマ、内容及び文章について議論と推敲を重ね意見書原案を作成し、その後、各派交渉会での検討、本議会での採決を経て、岡谷市議会の国と県への意見書提出に結び付けました。</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>各意見書の ①：議案可決日 ②：目的 ③：効果 ④本議会採決結果など</p>

要請・陳情

については以下のとおりです。

1. 災害からの復旧復興と地域防災対策の推進を求める意見書

- ① 令和3年第4回定例会（令和3年10月4日）
- ② 令和3年8月の大雨災害を受けた郷土の復旧・復興について、応急救助後も支援の拡充を図ること、諏訪湖流域及び天竜川水系の抜本的な治水対策を図ること、また事前防災の取組を推進することを国、県に求めました。
- ③ 提出時期、内容については、いろいろな意見もあったが会派として早い時期に出すことが妥当だと判断した。市民の思いを代弁できたのではないかと、また行政に対する応援にもなったと思います。
- ④ 全会一致で採択。

2. 主要地方道下諏訪辰野線拡幅改良を求める意見書（継続案件）

- ① 令和3年第4回定例会（令和3年10月4日）
- ② 地元住民の安全通行の確保と諏訪圏域と上伊那圏域を結ぶ重要な幹線整備のため、拡幅改良の実現を求める意見書。継続して県にお願いをしています。
- ③ 議会の総意として、拡幅改良を望み、協力していく姿勢を示すことができました。
- ④ 全会一致で採択

3. 3回目の新型コロナウイルスワクチン接種に対する支援を求める意見書

- ① 令和3年第5回定例会（令和3年12月13日）
- ② 国に対し、ワクチン供給の量とスケジュール、ワクチン接種の副反応等について県・市町村との連携と情報共有を求め、疲弊している医療従事者や医療機関に対し手厚い支援を要望した。県に対しては、接種会場の増設など接種体制の強化についても要望しました。
- ③ 2回目までの接種に比べて、スムーズな接種の実施に繋がられました。
- ④ 全会一致で採択。

4. ヤングケアラーへの支援の充実を求める意見書

- ① 令和4年第1回定例会（令和4年3月15日）
- ② 全国的に認知され、問題となっている、いわゆるヤングケアラーについて、国に対し必要な調査と啓発活動の推進及び支援体制の確立を求めました。
- ③ 我が会派を含め岡谷市議会議員が、この件で議論を重ねることにより、ヤングケアラーについて認識を深めることができました。そして4月19日には、自民、公明、国民民主3党が「ヤングケアラー」への支援の検討チームを立ち上げると合意をしました。我々のこうした動きが全国から集まり、国政をも動かしています。
- ④ 全会一致で採択。

5. 燃料油価格の抑制と地方経済の回復を求める意見書

<p style="text-align: center;">要請・陳情</p>	<p>① 令和4年第1回定例会（令和4年3月15日）</p> <p>② 岡谷市民の生活にも直接影響を及ぼす燃料油価格の高騰について特に消費者の負担軽減を直接的に支援する対策を国に求めました。</p> <p>③ 他の市町村議会の声とともに、国の対策の強化に結びついています。</p> <p>④ 全会一致で採択。</p> <p>Ⅲ. ウクライナの平和を求める決議の採択と街頭集会の実施</p> <p>○活動内容</p> <p>2月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻に対し、我々議員も強い衝撃と激しい怒りを覚えました。有志による顔合わせから始まった熱い思いは大きく広がり、議会全体での決議文の採択と街頭集会の開催に至りました。令明おかやは気持ちを一つにして、3月15日に決議の採択と翌16日には、新型コロナウイルスの感染拡大防止にも努めながら、集会参加を果たすことができました。集会では、最大実行委員長の役を仰せつかりました。</p> <p>○活動の実績と効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を上げることの大切さを再認識できました。多くの声の結集が、ウクライナの人々の力になると信じています。 ・岡谷市議会の動きは少なからず、県内他市町村の意見書提出あるいは決議採択に影響を及ぼしたと思います。岡谷市議会の結束力のなせる業だと感じます。岡谷市議会の新しい歴史を作りました。 ・他の市町村の方も交え多くの方に参加をしていただき、議員だけでなく一般の方々との連帯も感じることができました。
<p style="text-align: center;">その他</p>	<p>○活動内容</p> <p>4月18日総会開催 会派定例会 合計約20回 開催（原則木曜日）</p> <p>議案勉強会4回 理事者との懇談会4回 実施</p> <p>会派定例会については、毎週木曜日9:30から2時間を目安に、会派室にて行うことを基本とし、ほぼ毎週実施することができました。</p>

※会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。

※議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。